

二俣瀬小（安東知彦校長）の校歌  
は、1961（昭和36）年から64年  
にかけての校舎新築移転を記念し、  
制定されたと考えられる。確かな記  
録こそ残っていないが、1番の歌詞記  
には「希望をこめてたてられた光  
りかがやくこの校舎」というフレー  
グがあり、卒業生たちの記憶からも  
この時期に作られたようだ。

## 創刊110周年記念 誇れるふるさと 24地区リレー (vol.6)

### <二俣瀬③ 小学校歌>

#### 校歌

一日吉の森に夜はあけて  
ダムを見下ろすおかの上  
希望をこめてたてられた  
光りかがやくこの校舎  
二俣瀬 わたしたちの 小学校

二 厚東の川のきよらかに  
こころをすまし通う道  
いつもすなおに生き生きと  
みんな仲よくのびていく  
二俣瀬 わたしたちの 小学校

三 鷹の子山に日は光り  
見上げるひとみくもりなく  
大きく胸をはってたち  
学ぶちからがわいてくる  
二俣瀬 わたしたちの 小学校



二俣瀬小学校

### 校舎新築移転 前後に制定か

同校は1873（明治6）年に木田、山中、善和に小学校が設立されたのが始まり。10年後に3校を合併して二俣瀬村立協正尋常高等小学校となつた。現ふれあいセンタ一敷地からの移転のため、1961年に現在地で校舎の建設を開始し、翌年にはもう一つの校舎と体育館を新築。64年に完成記念式典を挙行した。卒業生たちに聞き取りをすると、完成前には「校歌は無かった」と答える人が多く、校舎ができたタム、鷹の子山が登場する。この時期に作られたようだ。

歌つた記憶がある」とこと。ただ、同校の80年誌や100年誌を開いても、制定の時期やいつさつは判明しなかつた。作詞を手掛けたのは児玉一雄さん（木田）と吉富次郎さん（車地）。児玉さんは47年に創立し、58年に幕を閉じた二俣瀬中の国語科教員で、同校の校歌には二俣瀬村長を父に持つ。吉富さんは二俣瀬村長を父に持つ。歌詞には、学校の裏側にある日吉神社や学校から少し見下ろせる厚東川ダム、鷹の子山が登場する。歌詞には、学校の裏側に特別な歌として大事にさせたい」との熱い思いが返ってきた。児童にとっても先生にとっても、特別な歌として大事にされている」とがつかえた。

### 「希望をこめて」記憶に残る

ト調査を行い、好きな歌詞を質問。気持ちが明るくなる、誇りに感じるといった理由から「二俣瀬わたしたちの小学校」や、いろいろ人の思いが伝わってくるからと「希望をこめてたてられた」を選ぶ回答が多くなった。先生たちに校歌をつた。児童に伝えたいことを尋ねたところ、「校歌とは学校の誇りであり文化」「地域の思いや願いが込められている」「愛させたい」との熱い思いが返ってきた。児童にとっても先生にとっても、特別な歌として大事にされている」とがつかえた。